

あを越え伊勢街道

(初瀬街道)



風景街道「伊勢街道」連絡協議会
歴史街道推進協議会

あを越え伊勢街道 (初瀬街道)

A O G O M E

なら風景街道

「日本風景街道」とは？

「日本風景街道」は、道路とその沿道や周辺地域を舞台に、地域住民や活動団体、企業や大学関係者と行政などが一体となった自主的な活動を促進し、地域の活性化や観光振興に寄与することを目的とした国土交通省の施策です。景観や自然・歴史文化などを活かした個性豊かな地域づくり、美しい環境づくりを目指して、平成19年度から本格的な活動が始まりました。

発行：風景街道「伊勢街道」連絡協議会
編集：紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会
協力：歴史街道推進協議会



長谷寺 本堂舞台



室生大野の里を行く

あを越え伊勢街道 (初瀬街道)

あを越え伊勢街道の概要

大和と伊勢を結ぶ道は、古代からあったといわれている。それは伊勢志摩の新鮮な海の幸を大和朝廷に献上する贄の道であった。壬申の乱(672)の際、吉野宮滝を発った大海人皇子一行は宇陀を経て宇陀川沿いを下り、その夜名張に着いた。この後、伊賀の柘植から鈴鹿の関を通り、北伊勢では迹太川(現在の朝明川または米洗川)のほとりで伊勢神宮を遥拝し、戦勝を祈願した後、美濃から近江に攻め入った。

勝利を得た大海人皇子軍は、帰路もほとんど同じコースをとり、9月12日に飛鳥浄原宮で天武天皇として即位する。

天武天皇は伊勢神宮に対する崇拜の念が強く、娘の大来皇女を斎王として伊勢に遣わしている。斎王とは神宮の祭祀のため奉仕した未婚の内親王・女王のことで、天皇の即位時に占いで選ばれ、その天皇の一代の間の務めを原則とした居つきの巫女のことである。

その後、大和から斎王や勅使が賑やかに伊勢へ向かった道が、大和からは「あを越え伊勢街道」伊勢からは「初瀬街道」と呼ばれる、現在の国道165号線沿いの道である。

あを越え伊勢街道は、桜井市初瀬から宇陀市榛原萩原の札の辻で伊勢本街道と別れ、名張・阿保を越えて松阪市六軒町で参宮街道に合し松阪・伊勢に至る道で、高取藩の植村家(3万石)が参勤交代で通過。初瀬宿には本陣、三本松

宿には藤堂藩支配の本陣と茶屋、名張宿には本陣・脇本陣・問屋などの町制度も承認されていた。

江戸時代後期から参宮客で賑わったあを越え伊勢街道も、鉄道の開通により徒歩での参宮が激減。街道も国道の新設や鉄道の架設、団地やゴルフ場の造成によって消滅し、その一部が里道として残るのみである。沿道の宿場町には、現在も伊勢参りの講札や常夜灯が残され、往時の賑わいを伝えている。



大海人皇子が、斎王が伊勢に向かい、
本居宣長が大和を目指した
歴史ロマンをたどる道

あを越え伊勢街道

(初瀬街道)



歩く速さで見えてくるものがある。
歩くからこそ出会うものがある。
いにしへの旅人の速さで、視点で
歴史の道をたどってみよう。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

◆目次

- あを越え伊勢街道の概要 1
- あを越え伊勢街道のルート 2
- (1) 桜井 4
- (2) 朝倉 6
- (3) 初瀬 8
- (4) 西峠 10
- (5) 札の辻 12
- (6) 山辺三 14
- (7) 大野 16
- (8) 三本松 18

(1)桜井

(桜井市桜井～慈恩寺)

かつて古代ヤマト王権の中心地であった桜井からは多くの古道が四方に伸びている。四季折々の自然に誘われ、道端に残る歴史を訪ねてみよう。
詳しくは桜井観光まちづくり課
桜井観光案内所 TEL 0744-44-2377へ

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - まぢがえやすい分かれ道
 - 地藏など
 - その他文化遺産等
 - 案内板
 - トイレ



1 桜井駅南口
近鉄改札口をぬけて階段を上がりJR改札前を通る



上つ道や山の辺の道
奈良盆地の南北に伸びる3本の古代の官道うち東側の道。平行して東の山裾には山の辺の道がある(検原神社)



3 保田與重郎生誕地
戦前から多くの著作を残した日本の文芸評論家の家



万葉歌碑めぐり
街道北側の山裾の集落をつなぎ平行する道には、所々に万葉歌碑が建てられている(白山神社)



7 常夜燈
竿のないユーモラスな常夜燈



8 慈恩寺の道標
「ひだりよしのかうや道／右ハミわ奈らち」2つに折れている



横大路
『日本書紀』に推古21年(613)「難波より京に至る大道を置く」とあり、葛城市の長尾神社からは竹内街道へと続く(長尾神社)



2 桜井町道路元標
かつては市場もあり、賑わった商店街から多武峰への分岐に建つ



多武峰へ
桜井駅から等彌神社や国宝十一面観音を祀る聖林寺を経て、談山神社までは約8.8km(約5時間)(談山神社)



4 磯城邑傳稱地
紀元二千六百年を記念して建立



5 舒明天皇御陵
約1.5km先の天皇陵を指す



6 誅組烈士之墓
近鉄の踏切を渡った先の墓地にある



忍阪から宇陀へ
舒明天皇陵や石位寺を経て史跡粟原寺跡へ約7.2km。さらに急な男坂を越えると宇陀市宇陀へ出る(舒明天皇陵)









この部分は次ページをご覧ください

(2) 朝倉

(桜井市脇本～初瀬)

古代からこの道は東国への重要なルートで神武東征はじめ「記紀」や万葉歌の舞台が沿道の各所に残っている。現在の国道165号は昭和初期まで桜井駅～長谷寺参道間を運行していた「初瀬軽便鉄道」の軌道跡である。

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  まちがえやすい分かれ道
-  地藏など
-  その他文化遺産等
-  案内板
-  トイレ



11 白山神社参道

神社へは西側の案内板に従って信号を渡る。境内には「萬葉集発願讚仰碑」と雄略天皇の第1番歌碑がある

信号のない横断歩道を渡る



12 流れ地藏

文化8年の大洪水で長谷寺の前から流れてきた地藏。腰からは土に埋もれている



13 十二柱神社

狛犬の台座を4人の力士が支えている

押しボタン信号を渡り旧道へ



14 長谷寺参道入口

両側の常夜灯の正面に愛宕山、裏面には宝暦十年(1760)とある



狛峠越えの道

持統天皇の孫、軽皇子(後の文武天皇)一行が亡父、草壁皇子を偲び狩りをした阿騎野(宇陀市大宇陀)への道とされる。柿本人麻呂が長歌1首と短歌4首を残す(万葉公園)



9 常夜燈

脇本の集落のはずれの道の両側にある



10 朝倉村道路元標

朝倉小学校の校門に至る分岐に建つ

(3) 初瀬

(桜井市初瀬～吉隠)

長谷寺は朱鳥元年(686)創建ともされる真言宗豊山派の総本山で、平安中期には紫式部や清少納言により観音参りが広められた。上化粧坂へは仁王門の横を流れる初瀬川を少し遡った連歌橋を渡り、興喜天満神社前を通る。



22 長谷寺
仁王門から本堂へ続く登廊の石段は399段。四季の花々が境内を彩る



23 興喜天満神社前の道標
鳥居前に移設されたため「ひだりいせ」とあるが、天神橋からは右へ坂道を上る



24 上化粧坂からの眺望
本居宣長が「まるで別世界に来たようだ」と感嘆し、松尾芭蕉も印象に残る峠と記した



26 多羅尾瀧への道標
信号を渡った浄水場のフェンス内にある。多羅尾不動堂を示す



25 庚申辻の道標
上化粧坂と下化粧坂が合する庚申辻に建つ



27 石の覆いを設けた地蔵
約150mの旧道の中程左手にある



19 法起院境内の道標
西国三十三カ所番外札所。道標は山門をくぐった右手にある



20 長谷寺前の道標
桜井市笠の登山荒神を示す



21 行悦道標①
宝物殿前に建つ廻国供養碑で「いせ宮川へ廿一里半」と刻む。元位置は西峠付近か?



15 近鉄長谷寺駅
長谷寺へは石段を下り国道を横断して参急橋を渡る。特急、快速急行以外は停車



16 長谷山口坐神社
門前町途中を右へ朱塗りの太鼓橋を渡り、石段まじりの急な参道を上がる



17 伊勢辻の道標
三叉路を右に折れると伊勢辻橋で初瀬川を渡る



18 伊勢辻橋
橋を渡って左へとなれば下化粧坂、右折すれば山口神社の横から国道へ出る

獣害防止の柵を通りアゼ道を歩く

この部分は前ページをご覧ください

この部分は次ページをご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - その他文化資産等
 - 案内板
 - まちがえやすい分かれ道
 - トイレ

(4)西峠

(桜井市吉隠～宇陀市榛原萩原)

桜井慈恩寺から宇陀市榛原の萩原まで街道は一本しかなく、かつては伊勢参りや長谷詣の多くの旅人が行き交った。墨坂と呼ばれた峠は宇陀市榛原の西に位置するため、今では西峠と呼ばれている。



30 天満神社の太神宮燈籠

吉隠の集落奥の天満神社境内にある文政十三年(1830)銘の太神宮灯籠



28 吉隠の道標

大峯奉納を兼ねた道標。「右いせ」と刻む



29 穂積皇子の万葉歌

元小学校跡に建つ。国道の横断は押しボタン信号から



34 春日宮天皇妃陵

光仁天皇の母(紀椽姫)の陵。夫の春日宮天皇は志貴皇子



31 吉隠の風景

「吉隠」は古い地名で、新製(よきにいばり)の意か?のどかな棚田風景が広がる



32 御陵への道標

御陵までは急な坂道が約700m続く



33 供養碑と庚申堂

寛文11年(1671)造立「奉施庚申 角柄村」と刻む庚申堂



35 シュウタレ入口の庚申堂

シュウタレは旧道の呼び名。国道から駐車場に沿って右へ入る



37 墨坂伝承地碑

大和国中へ侵攻する神武天皇に対し磯城の皇師が炭火を焚いて防戦したと伝わる



38 新しい伊勢本街道の道標

平成2年のもので、道標の建つ坂道を下る



45 宇陀川の桜並木

榛原駅の南から上流にむけて続く。万葉歌にちなみ「獵路の桜」と呼ばれている



44 榛原駅南口の石標

正面に「鳥見山中靈時跡 北二十丁」右に「肇国聖蹟 墨阪神社 東六丁」と刻む。1丁は109m



40 墨坂伝承地碑

上町商店街との合流点の手前右側の民家軒先にある



36 ムラサキ地蔵下の道標

西国三十三所供養塔を兼ねる。伊勢街道と戒場薬師を示す



39 前川家

萩原宿の北端にある大和棟の主屋があった屋敷で、門屋前には屋形橋も残る



万葉歌碑を訪ねて鳥見山へ

「日本書紀」で神武天皇が祭祀を行った山といわれている。山頂近くの公園には春は桜やツツジ、秋には紅葉が楽しめる。展望台からの宇陀、吉野方面の眺めは絶景(鳥見山)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

(5) 札の辻

(宇陀市榛原萩原～榛原長峯)

峠や川などの難所が多い伊勢本街道は、南北朝時代に上多気へ移った北畠氏が整備。神宮遷座の道ともいわれ、大和と伊勢の両方から「本街道」と呼ばれている。新道建設には難所を迂回する別ルートがとられたため、昔の面影を残す道として、歩いて伊勢をめざす人に注目されている。



41 あぶらや
明治10年頃まで営業の元旅館。萩原の賑わいを本居宣長は『菅笠日記』に記す



42 「札の辻」の角石の道標
伊勢本街道と初瀬街道(あお越え道)の分岐点。高札場のあった札の辻に建つ



43 太神宮灯籠
御室御所(仁和寺)御寄附の銘がある



49 東町の町並み
榛原の伊勢街道で唯一古い町家が続いている



51 庚申堂の辻の石標
石いせ 左はやま道



50 石標
往来安全 江戸屋



52 まち外れの道標
道標は観音寺山道を示す。杉の木の下に庚申が並ぶ



48 宗祐寺
融通念仏宗の寺院。重文の木造多聞天立像と仏涅槃図三幅を蔵する



46 墨阪神社
崇神天皇が疫病を鎮めるため赤盾8枚、赤矛8竿をもって墨坂神を祀ったと伝える。文安6年(1449)天の森から現在地に遷座する



47 天野橋
伊勢本街道はこの橋をわたり、川沿いに内牧へと続いている



額井岳への道
秀麗な山容で「大和富士」とも呼ばれる額井岳へは、天満台を経て十八(いそは)神社を過ぎて急坂を上る。(額井岳) (6)に続く



53 国道との合流点
ここから街道は国道と近鉄の線路とたさなる

地図内凡例	
	道標など
	常夜灯
	神社・仏閣・城址など
	まちがえやすい分かれ道
	WC トイレ
	地藏など
	その他文化資産等
	案内板

(6) 山辺三

(宇陀市榛原長峯～宇陀市室生緑川)

平安時代には興福寺荘園の篠畑庄と呼ばれ、明治8年に近隣の三村が合併して山辺三となりました。国道の北側には、倭姫命が八咫鏡を奉祭した篠畑に比定される篠畑神社や「山部の赤人古跡これより八丁北」と山部赤人の墓と伝わる石塔を案内する宝暦年間(1751～64)に建てられた道標などがあります。



戒長寺から篠畑神社へ
十八神社から伝・山辺赤人墓を経て戒長寺前をそのまま進み、右手下に簡易水道施設が見える三叉路を下ると篠畑神社から街道へ戻ることができる。(戒長寺)



55 山辺赤人の墓
道標
宝暦年間(1751～1764)に造られた「山部の赤人古跡これより八丁北」



54 天満台東入口の信号
交差点を右折して室生ダム沿いの道を行く



59 篠畑神社
「日本書紀」の垂仁天皇の条に、倭姫命が八咫鏡を奉祭した篠畑に比定される



62 旧町村境の峠
旧道は左側の山手を通っていたとの説もある



63 半焼橋
緑の道標から右側の橋を渡って、すぐ左折して線路沿いに坂道を下る。横断注意!



61 エノキの巨樹
別名ヨノミ。幹回り約3.5mもある



57 供養塔
宇陀西国三十三所か供養塔



60 地蔵堂
藤本家の前にある



56 ぬれ地蔵
舟形の窪みに半肉彫りした地蔵立像。ダムが増水すると、裾まで水没する。裏山から水が落ちることから名付けられた



58 常夜灯
「村中安全」弘化3年(1846)5月建立

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

(7) 大野

(宇陀市室生緑川～室生三本松)

坂を下った交差点の道標は「揚龍山大野寺」と室生寺の西の大門で、枝垂桜と川をはさんだ対岸の岩壁に刻まれた、高さ11メートルを越える鎌倉時代の弥勒磨崖仏で知られる大野寺を指し示しています。三本松村の役場が置かれた元三の地区は、古くは髭無と呼ばれ、初瀬に泊まった旅人が、翌日の昼食をとる所として賑わいました。



64 大野の道標
「右いせ道・天保十一年(1840)」向瀬への分岐にあったとされる



65 室生寺への石標
街道はここから右へ坂道を下る



66 太神宮常夜灯
安政六年(1859)建立



67 大野寺への道標
大野寺へは右折して宇陀川沿いに約300m



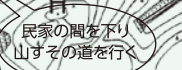
69 えび坂入口
Y字路を右へ急な坂道を5分ほど上がる



70 北向き地藏
えび坂の途中右側にある。



71 えび坂からの眺め
眼下に近鉄の線路と室生口大野駅が見渡せる



75 元三の街道
元旅籠「ますや」と「ぬしや」が並ぶ



72 太神宮常夜灯
上ぬしやの筋向いにある。嘉永三年(1850)



68 大野海神社
社殿は県有形文化財。境内には舞殿が残る



73 上ぬしや
建物は新しくなっているが、玄関脇には講看板が飾られ、往時のにぎわいを伝えている。



74 石標
元三の宿場は萩原と名張はぼ中程になる。右には三本松道路元標



室生寺への道
県道28号のバス道を歩けば約2時間で門前へ。途中の一の渡橋を渡って右側の溪谷沿いに東海自然歩道が整備されている。石畳は滑りやすいので注意!(室生寺)



竜鎮溪谷への道
室生ダムのダムサイトを渡り左へ。約800m湖岸を行くと赤い竜鎮橋を渡ったところで左の溪谷へ。室生口大野駅からは約3Km。(竜鎮の滝)

地図内凡例	
	道標など
	地藏など
	その他文化資産等
	神社・仏閣・城址など
	案内板
	まちがえやすい分かれ道
	トイレ

(8) 三本松

(宇陀市室生三本松～県境)

琴引峠は江戸時代には伊賀から大和へ越える最初の峠で、津の藤堂藩の高札場と旅人用の井戸がありました。昭和3年の参宮急行の工事で切り下げられ当時の面影はありませんが、「琴引峠跡」など多くの石碑が長命寺境内に移されています。



82 安産寺
櫃の一本造りの子安地藏は重要文化財



79 元本陣
道を挟んで庭園が残る



83 道の駅「宇陀路室生」
村出身の造形作家、井上武吉のデザイン監修による



88 三重県境
近鉄の鉄橋をくぐると県境はもうすぐ



77 白鳥神社
伊勢で亡くなった日本武尊の霊が白鳥となって飛来したという伝承が残る



78 川口家前の青面金剛
伊勢本街道と初瀬街道(あお越え道)の分岐点。高札場のあった札の辻に建つ



76 琴引峠跡の碑
長命寺境内にあるが、元は跨線橋手前にあった



80 常夜灯
日露戦争集結記念として明治三十九年に建立



81 三本松海神社
祭神は祈雨止雨の豊玉姫命で室生竜穴神社から勧進されたと伝えられる



長瀬から室生寺へ
室生橋を渡り長瀬1号橋の手前から川沿いを進み、獣害避け柵を抜けて滝谷花しょうぶ園をめざす。室生寺までは約12Km。詳細は「宇陀市ハイキングマップ」。(室生寺)



84 長瀬の町並み
食料品店に二階壁面に残る食料品店の食料品



87 県境の地藏群
国道のカーブ右側にある。道路の横断は注意!



86 室生寺への道標
辻堂の軒下に室生山絵図を掲げる



85 二階の鏝絵
丸に桔梗も紋と梅を描いた扇

地図内凡例

	道標など		地藏など
	常夜灯		その他文化資産等
	神社・仏閣・城址など		案内板
	まちがえやすい分かれ道		トイレ

あを越え伊勢街道(初瀬街道)を歩こう

『日本奥地紀行』にみるイザベラ・バードの旅

イザベラ・ルーシー・バードは1831年10月にイングランド北東部ヨークシャーの小さな町で聖職者の家庭に生まれ、22歳から70歳直前まで、南アメリカを除く五大洲におよぶ旅を行い、2冊の写真集を含む多くの旅行記を著しました。明治11年(1878)には、日本の真の姿をとらえるために5月に横浜へ上陸。東京から日光を経て東北を縦断して、北海道まで足をのびています。

10月18日から始まった関西方面の旅では神戸と京都を中心にまちの様子や日本の文化、宗教に関する記述などが残されています。人力車を使った伊勢神宮への旅は、11月6日に小雨の中、京都を出発し、伏見稲荷から宇治を経て奈良市で宿泊。翌日は一日中奈良市内を見学して夜に桜井市の三輪で宿をとっています。8日の桜井からは初瀬街道をたどり、宇陀市室生元三と伊賀市伊勢路で宿泊して、11月9日の夜に伊勢市山田に着きました。

伊勢では2日間を過ごし、外宮へ参拝した翌日には山田から二見を経て朝熊山へ登り、内宮から間の山を越えて山田へ戻っています。帰路は津から伊勢別街道を経て、関からは東海道を通り鈴鹿峠を越えて11月15日に京都へ帰っています。伊勢からの宿泊地は三重県津市、滋賀県甲賀市土山宿、大津市で、その旅程は11日間で約320Kmに及びます。ここではマップに重なる3日目と4日目と伊勢に着いた5日目の訳文の一部を読んでみましょう。

■11月7日(3日目・雨) 三輪～長谷寺～三本松(鬚無)ぬしや

霧が晴れた[初瀬川]の河谷は幅が狭まり、姿の美しい山々が行く手をささぎようになっていたが、突然、本当に得も言われぬ美しい山間の町[初瀬村]が眼前に姿を現した。人口約二千人の町である。[通りの]真ん中の石組みの水路が水が激しく流れ下り、滝のように流れ下る水の音が辺り一面に鳴り響いていた。廂(ひさし)が深く、屋根の勾配がきつくと、色合いの暖かな家を通りに続き、その古風な趣は目を楽しませてくれた。家は急峻な山腹にある崖や階段状の所にも建っていた。《中略》

本堂の舞台からの眺めを見ていると去りがたい気持ちになってしまう。そこからは、上へ上へと連なってくるいくつもの堂宇や、激しく流れる山川[初瀬川]の岸に不規則に折り重なるように展開する急勾配の屋根をもつ初瀬の家並み、また、山や森、楓が燃え立つような山腹が一望できるのである。愛宕山という名の変わった形をした根根に至る急勾配のジグザグ道を上がっていった私たちは、ここから今一度「長谷寺」を見納めた。その時、私はこれまで日本で感じたことがなかったような名残惜しさを覚えた。

■11月8日(4日目・晴れ) 三本松(鬚無)～名張～阿保～伊勢路

《前略》そして、夜明けになるまで無情の雨が降っているかのような音で目を覚ました。しかし、<雨戸>を開けると、そこにはとてもうれしい驚きが待っていた。大きな雲が蓄積色の塊となって晴れていきつつあり、そのあとの空は真っ青だった。山の上には一週間にしなかつた太陽が昇っていき、辺りは陽光に包まれて刻一刻と色の深みを増していたからである。ぬしやというその宿は美しい木津川[正しくは宇陀川]の急崖の上にあり、縁側からは鋭く曲がる川を見下ろせた。川は灰色の高い崖の下を陽光を浴びて輝き、崖には真っ赤に紅葉した蔓草が垂れていた。《中略》あらゆるものが、陽光に輝く雨露を浴びており、まるで秋の美を表す一幅の絵画だった。しかし、千年前のいくつもの短歌には、到来する冬をみつめる日本の農民の恐怖心が詠まれており、宿の女将は、私たちが風景の美しさを絶賛すると身を震わせ、もう六週間もすればこの美しい村も世界から閉ざされてしまうのです、と言った。

■11月9日(5日目・晴れ) 伊勢路～(青山峠)～垣内～六軒～松阪～伊勢山田

《前略》歌々(こうこう)たる月光の下、浅くて幅の広い川に着いた。宮川という名のこの川では渡船を待って長らく足止めをくつたが、いやではなかつた。木の茂った暗い兩岸の土手、灯を点した無数の釣り舟、首に提灯をぶら下げながら冷たい水に腰まで浸かって釣りをする多数の我慢強そうな漁師からなる風景は実に美しく、絵のようだった。[柳田川からは]寺院や神社、<鳥居>、仏像が道に沿って次々と現れた。また、大木の茂る聖なる社[鎮守の森]もいくつもあり、木には藁縄が帯のように巻かれ、その縄[注連縄]には房のようなものが垂れ下がっていた。また、ほとんどの家の玄関の上には神道の象徴[門飾り]が飾ってあった。私たち[の乗った人力車]は残りの行程を突っ走り、山田に到着した。ここは古代信仰揺籃の地である。月光の下でも堅牢で立派に見えたから、陽光の下でならいっそう堅牢で立派に見えるにちがいないと思われた。どの家も二階建て、ほとんどは堅牢な蔵造りで、切妻の妻を通りに向けており[妻入り]、屋根にはどっしりとした瓦が葺かれ、壁の下部の石葺は整って美しいからである。すばらしい楠と杉の杜や、両側を石で縁取った外宮への参道とその入口の堂々たる佇まいは別としても、この山田ほど美しく立派な町を日本で見つけたことはこれまででなかつた。

雨中の旅となった3日目は初瀬からの道中の記述は少なく、紅葉や刈り取られた稲を眺めながらいくつかの峠を越えたとしか記されていません。天候が回復した4日目は名張で宇陀川の護岸用の石がいっぱい詰め込まれた大きな竹籠「蛇籠」に目を留め、森の中にあつた榎木(ほだぎ)の列を見て椎茸栽培について詳しく書き留めています。5日目の夕方に六軒にたどり着き、新たに車夫を雇い夜道を山田へと急いでいます。

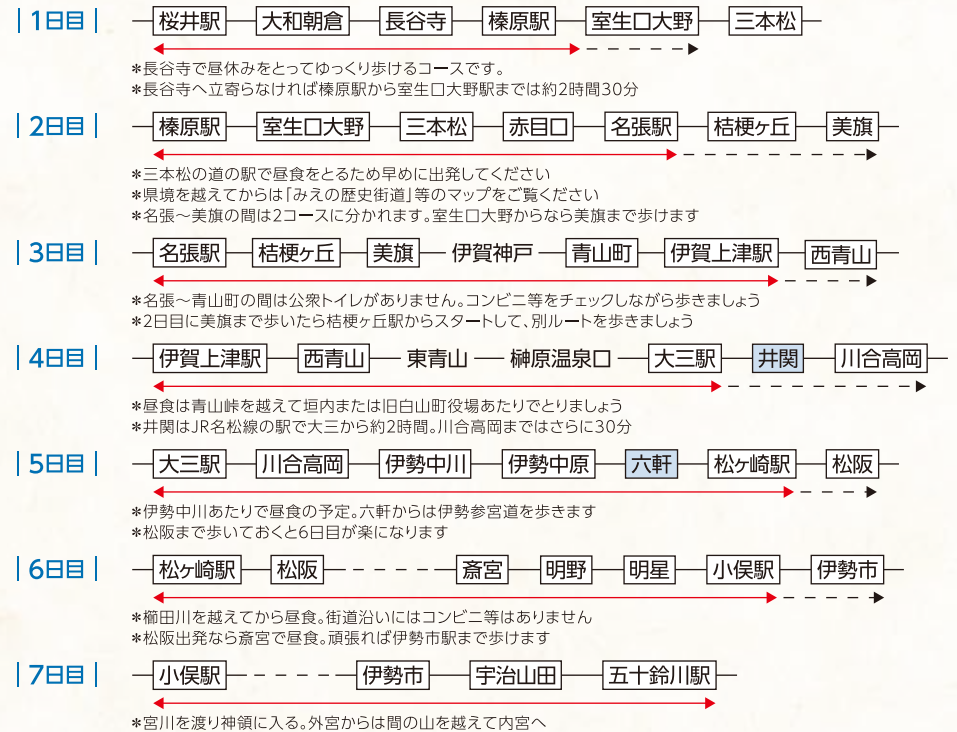
京都に戻ったバードは次のようにこの旅を振り返っています。

■11月16日 京都

私たちは昨日[十五日]の午前中に京都に着いた。外国の女性二人か、一部を除けばヨーロッパ人の女性などめつたに見かけないような地域を、一人の従者も付けないで二〇〇マイル[三二〇キロ]近くにも及ぶ旅ができ、ただの一度も、強奪にも無礼な仕打ちにも不快な目にもあわなかつたのは、この地域の治安がいかによく平和であり、外国人がそれを享受できるかの証になる。私たちはそんな目にあわなかつたどころか、至る所で丁重で親切なもてなしを受けたのだった。

初瀬街道を歩くには、併走する近鉄大阪線と山田線を利用すると7回程の日帰りで伊勢まで歩き継ぐことができます。モデルコースを参考に体力や気象条件を考慮して街道歩きをお楽しみください。

モデルコース(初瀬街道から離れる駅は□枠を外したり、一部省略をしています)



発行: 風景街道「伊勢街道」連絡協議会 編集: 紀伊半島交流会 伊勢街道分科会
協力: 奈良県・三重県・桜井市・宇陀市・歴史街道推進協議会 2024.07.24発行

※このページの訳文は平凡社東洋文庫「完訳日本奥地紀行4」金坂清則訳注を利用させていただきました
※このマップはイオングループからの寄附金を活用した「奈良の文化遺産やまちなみの保全事業」補助金を活用して制作しました